

メクネス

▶ 早朝から、アラビヤパンを焼く女性

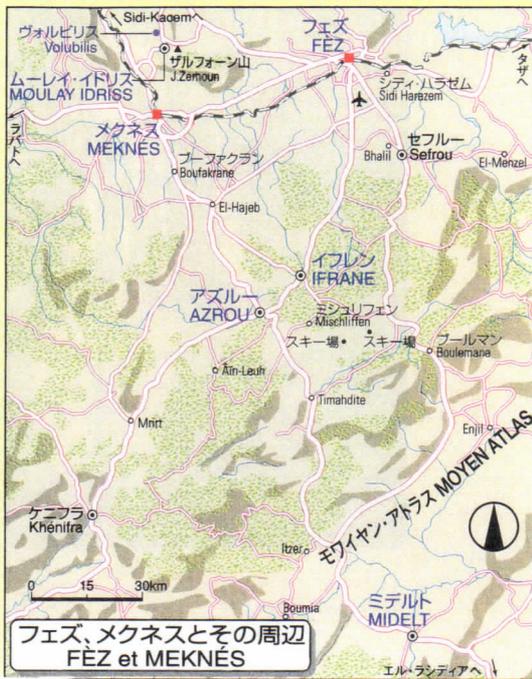


▶ メクネス内にあるなめし羊羹巴里人街



モロッコの北部を走るリフ山脈と、その南に横たわるモワイヤン・アトラス（中ぐらいのアトラス）に挟まれた地域には、日本の京都と奈良に相当する古都、フェズとメクネスがある。現在、政治、経済の中心は西側のラバトやカサブランカに移ってしまっているが、1000年以上も前に建設された街並みは今も残っていて、それらの建物が人々の生活の場として生き続けているのだ。色褪せたモスクの塔から祈りの声が響くなか、職人たちはCDラジカセから流れる西洋の音楽に小躍りする。確かに現代はこの煤けた街のなかに息づいているのだ。

▶ メクネスのマンストール門



食事

代表的なモロッコ料理は以下の通り。

タジン モロッコの鍋料理。肉や魚と野菜を煮込んだ料理。

クスクス モロッコ風パスタ。
粒状のパスタを蒸してシチューのようなものをかけて食べる。

ケフタ 牛や羊のひき肉を団子状にしたもの。
焼いたりタジンの具にする。

シシカバブ 肉の串焼き。

パスティッリア 鶏肉などをパイ包みにした料理。アーモンドなどが入ることも。

ハリラ エジプトマメと野菜のスープで香辛料が利いている。



7日目・16日(水)

世界遺産

メクネスの旧市街

7日目・昼食

チキンタジン

ラバト

首都のラバトには普段国王がお住まいになっている王宮がある。また現国王の祖父に当たるモハメッド5世の霊廟もある。この霊廟は内部の見学ができ、モロッコの技術の粋を集めた見事なモザイクを間近に見ることができる。

モハメッド5世廟の隣には作りかけのモスクが残されており、未完成のハッサンの塔はマラケシュのクトゥビヤの塔、スペインのセビリアにあるヒラルダの塔と同じ建築様式として知られている。サレ川のほとりにラバトの発祥地であるウダイアのカスバがある。中にはスペイン風のアンダルシア庭園やカフェムーアがある。カフェのテラスからはサレの町との渡し舟が見渡せる。



7日月・16日(水)

世界遺産

首都 ラバト内

ハッサンの塔



ムハンマド5世の霊廟

Mausolée Mohammed V

Map P.134-B2

フランスからモロッコの独立を勝ち取った元国王ムハンマド5世の霊廟。1961年に没後、1973年に完成した。モロッコの伝統的な建築技術と彫刻が美しく調和した傑作だ。

霊廟の4つの入口と廟内の四隅には、真紅の衣装をまとった衛兵が立っている。廟内はとてもきらびやか。特に天井のステンドグラスのような金色のランプと白い石の棺が美しい。中央の石棺がムハンマド5世のもので、その両側に前国王ハッサン2世と、彼の弟ムーレイ・アブドゥラー王子の石棺が安置されている。外国人も廟内に入ることができるが、あまりラフすぎる格好は避けよう。

ムハンマド5世の霊廟

カサブランカ

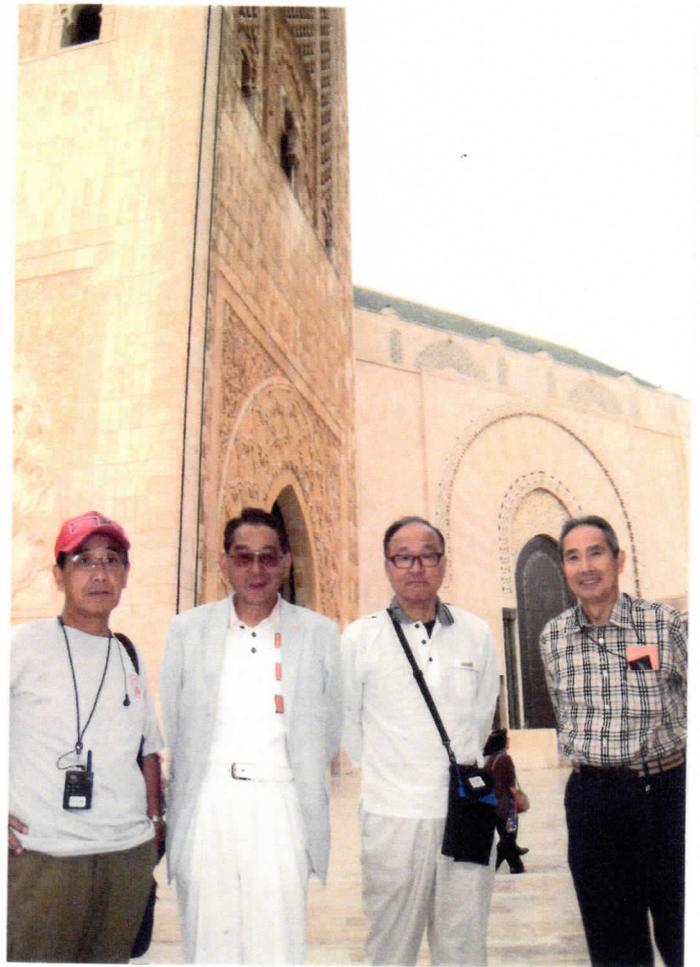
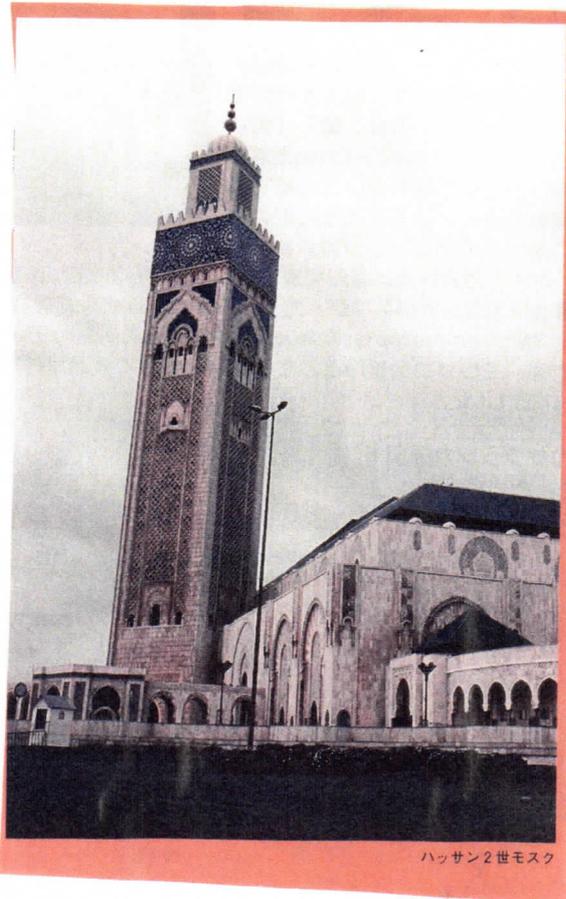
モロッコの玄関口で最大の都市。この町に足を踏み入れると近代都市とモロッコの古い文化が交じりあい、モロッコ観光の出発地点にふさわしくその後の旅に期待を持たせてくれる。

カサブランカのシンボルはハッサン2世モスク。ミナレットの高さ210メートル、最大2万5千人が同時に礼拝できるといふアフリカ最大のモスクだ。内部の見学は時間などが指定されていて予約が必要。



7日 目

16日 (水)



ハッサン2世のモスク(教会)

モスク前でメンバー4人